

ちよつといい話

そろそろ草を刈る時期
 と思って様子を見に行く
 ときれいになっている。
 上の方はどうなっている
 かなと思って行ってみる
 とそこもきれいになって
 いる。これには感心しま
 した。ありがたい事です。
 会員の皆さんが本当に自
 主的に刈ってくれている。
 こういう人が少しでも増
 えるとありがたいですね。

また、カワサザクラを
 植えたあと、そろそろア
 プラムシがたかる頃だと
 思っている。あ、俺が薬かけたよ。
 うすい薬をかけたから効
 かないようなら二回かけ
 た方がいいかな。」と言
 う人も…。

そんなふうには、メンバ
 ーが自主的に関わるのは、
 自分たちで方向性やコン
 セプト作りをしたからで、
 やらされているのではな
 いという事だと思えます。

信生庵側からの階段も
新しくできました

夢は広がります

誰でも城跡に行つて
 くつろげる公園になれ
 ばいいと思います。
 今年度までは整備
 が中心ですが、今
 後は歴史部会にお
 願いして、歴史案内を
 整備し、歴史に重みを
 持たせる公園にでき
 ると思います。



また、三の丸を里山
 にして植物観察をして
 もらったり、四季折々
 の多くの草花に植物名
 を表示して自然観察が
 できるようにするの
 も夢です。
 川崎城跡をネタに
 して、ああでもない、
 こうでもない、夢を
 語るのが楽しくてみん
 な参加しているのだと
 思います。

歴史部会委員長
君島通夫さん

再生市民会議設立当初「矢板市文化財愛護協
 会」のメンバーとして参加した君島さんは、
 現在歴史部会の委員長。宇大で歴史を専攻し
 たこともあり、「地元の文化財を守り受け継
 いでいく事は大切」「スギなどのクロキを切
 り市民が家族と一緒に楽しめる公園を作りたい」
 という代表の言葉に共感。この際徹底的にや
 るべきだと思ったそうです。

●一気に燃え上がった活動

市政50周年の記念事業として、
 塩谷朝葉が居城したという川崎
 城跡をぜひ再生したいという行
 政の思いと、地元の人々のこんな
 草ぼうぼうでは仕方がないとい
 う気持ちが高まって一気に盛り
 上がりしました。市長が唱えても
 応えるのは市民。市民の考えと
 行政の考えが一致したときには
 大きな仕事ができます。何かや
 ろうと思えば人材はいるのです。

●5000本のあんどんを

この3年間でかなりのことが
 できたと思いますが、これから
 もたくさんある課題にいろいろ
 な人が知恵を出し合っていかな
 ければなりません。ありがたい
 事に会員が増えていますがこれ
 はイベント（あんどん祭り）の
 効果だと思っています。一般市
 民に参加してもらい理解を深め
 てもらうと同時に、こういう事
 に自分たちも参加してみようと
 思ってもらえる事が大事です。2
 年目の昨年はあんどんの数を1

●子どもたちの心に残る思
い出を

とちぎテレビで取り上げられ
 たときに、地元川崎小学校の児
 童に歴史の説明する役を仰せつ
 かったのですが、子どもたちも
 学校の近くにこんな歴史があっ
 たんだと驚きの表情で話を聞い
 てくれました。テレビカメラが
 回っていたり、あんどん祭りで
 よさこいを踊ったり、語り部の
 皆さんと共演したり、一生の
 思い出として残るのではない
 でしょうか？

●一人一人が主役

人材はいても問題に向かお
 うとしなければ矢板は変わっ
 ていきません。また、一市民
 として動き方が分からないと
 いう人がたくさんいます。そ
 ういう人に参加してもらおう手
 だてを考える必要があります。
 行政サイドからの働きかけも
 必要です。
 自分のできる範囲でいいか
 ら、ちよつとでも参加して

5000本増やしましたが、
 鈴木代表に「5000本の
 あんどんをどうやって置く
 か設計してくれ！」と言わ
 れ10日ぐらいいかけて設計図
 を作った。初年度は段取り
 が悪いと言われた事もあり
 ましたが、問題が起った
 ときに冷静に話し合う事で
 乗り切ってきました。

●歴史部会の出番です。

整備が進んできたのでいい
 よ歴史部会の出番が始まります。
 今までもパンフレットの管理な
 どをやっていましたが、今年度
 は看板作りに着手します。

1590年、豊臣秀吉の小田
 原攻めの時に改易されたと言わ
 れていますが、謎に包まれた川
 崎城です。現存する資料が無い
 のが歯がゆいところですが、
 （先日行われた総会において君島
 さんが代表になりました。）

川崎城跡（矢板市指定・史跡）

矢板市民から「城山」と呼ばれて親しまれている「川崎城跡」は、平安時代から戦国
 時代にかけて塩谷地方の北西部を支配した「塩谷氏」の本拠地です。
 この城は、丘陵全体を使って造られた「山城」で、城跡の範囲は、北は城の湯温泉セ
 ンターの西まで、南は北澤不動尊の「堀江山」までの南北約1,500m、東西は宮川
 と弁天川の間の約340mです。主郭部は、城跡の中央やや南に位置し、東西44m、南
 北140m程の三日月形を示しています。主郭部と宮川との標高差は47mで、急斜面
 となっています。この城跡の築城者は、塩谷朝葉と考えられています。朝葉は、宇都宮
 義綱の二男で、鎌倉幕府の御家人として力を発揮し、鎌倉幕府第3代将軍「源」実朝と和
 歌を通して親しくなりました。中世文学史に残る「信生法師集」を残しています。城跡
 には、朝葉と実朝が和歌を読んだ句に梅を添えていることにちなんで、梅が植えられて
 います。

また、朝葉の二男時朝が笠間
 城主となっていることから笠間
 市と姉妹都市になりました。

この案内板には、
 とちぎの元氣な森づくり推進政策が盛り込まれています。
 川崎城跡は、その政策の推進地です。

みんなに知って欲しい川崎城の歴史

川崎城跡の案内板